

トルクロホスメチル水和剤 リゾレックス水和剤	取扱メーカー： 北興、住友化学、一農、琉産 原体メーカー： 住友化学
成分： トルクロホスメチル〔有機リン系〕……………50.0%	性状： 淡褐色水和性粉末45 μ m以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- リゾレックス粉剤の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 予防的に作用するので、発病前又は発病初期に使用するのが効果的である。
 - 本剤を施設で使用した後、施設内に臭気が残る場合は、換気を行う。
- 〈てんさい：根腐病，レタス：すそ枯病，ふぎ・きく：白絹病〉
- 一次感染は土壌生息菌によって発生するので株元を中心に散布するのが効果的である。
- 〈麦：雪腐小粒菌核病〉
- 雪腐小粒菌核病には有効であるが、紅色雪腐病、雪腐大粒菌核病には効果が劣るので、それらが併発する場合はベフラン液剤、トップジンM水和剤との混用散布が良い。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。
- てんさいの根腐病、葉腐病に対しては、予防的に散布する。また根腐病に対しては株元を中心に散布する。
- 野菜類の苗立枯病防除ではリゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、他の病原菌による苗立枯病では効果が劣るので、それらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用する。
- ばれいしょの種いも浸漬の際は、所定濃度の薬液に瞬時～10分間浸漬し、処理した種いもは風乾後貯蔵又は植付ける。
- さやえんどうの茎腐病に使用する場合、多発地では土壌灌注処理と組み合わせて防除する（効果）。
- オクラの苗立枯病に対しては、植穴又は株元に灌注する。
- 共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 処理した種いもは食料や動物飼料として用いない。
- 共通注意事項6．街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを 含む農薬の総使用回数	
りんご	紫紋羽病	1000倍	40 ℓ / 樹	60日前まで	1回	土壌灌注	1回	
てんさい	根腐病	100倍	ペーパーポット1冊当り1 ℓ (3 ℓ /m ²)	定植前		灌注	6回以内 (育苗土壌への混和は1回以内, 500倍希釈灌注は1回以内, 100倍希釈灌注は1回以内, 散布は3回以内)	
	根腐病 葉腐病	500 ～ 1000倍	100～300 ℓ/10a	30日前まで	3回以内	散布		
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	3 ℓ /m ²	育苗中期	1回	土壌灌注		
ばれいしょ	黒あざ病	50 ～ 100倍	—	貯蔵前又は植付け前		種いも浸漬 (10分以内)	1回	
麦類	雪腐小粒菌核病	1000 ～ 1500倍	60～150 ℓ/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内	
レタス	すそ枯病 白絹病	1000倍	100～300 ℓ/10a	7日前まで	3回以内		3回以内	
キャベツ	株腐病	500 ～ 1000倍						
トマト きゅうり なす ほうれんそう	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	3 ℓ /m ²	は種時	1回	土壌灌注	1回	
		種子重量の0.5%粉衣	—			種子粉衣		
ピーマン			500倍			3 ℓ /m ²	土壌灌注	4回以内 (種子粉衣は1回以内, は種前の土壌混和及びは種時の土壌灌注は合計1回以内, 株元灌注は2回以内)
			種子重量の0.5%粉衣			—	種子粉衣	
白絹病	白絹病	1000倍	1 ℓ / 株	前日まで	2回以内	株元灌注	2回以内	
ししとう 甘長とうがらし			1 ℓ /m ²					
ぎょうし								90日前まで
アスパラガス	茎枯病	500倍	100～300 ℓ/10a	収穫後から茎葉刈取り期まで 但し, 収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	苗立枯病			株養成期 (は種又は定植時から茎葉刈取り期まで) 但し, 収穫14日前まで				
メロン	黒点根腐病		3 ℓ /m ²	定植時	1回	株元灌注	2回以内 (定植時は1回以内, 生育期は1回以内)	
				生育期 但し, 収穫21日前まで				
こんにゃく だいず	白絹病	1000倍		30日前まで	3回以内	土壌灌注	3回以内	
			14日前まで					

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを 含む農薬の総使用回数	
ふ き	白絹病	1000 倍	3 ℓ /m ²	21 日前まで	1 回	株元灌注	2 回以内 (定植前の土壌 混和は 1 回以 内, 株元灌注 は 1 回以内)	
さやえんどう 実えんどう	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		1 ℓ /m ²	は種時 7 日前まで		2 回以内	土壌灌注	3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, は 種時の土壌灌 注は 1 回以内, 生育期の土壌 灌注は 2 回以 内 (但し, は 種時に土壌灌 注をする場合 には 1 回以内))
	茎腐病	種子重量の 0.5%粉衣			—		は種時	1 回
オ ク ラ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000 倍	1 ℓ /m ² (150ml / 穴)	は種時及び 子葉展開時	2 回以内	植穴土壌灌注	2 回以内	
う ど	白絹病		100～300 ℓ/10a	45 日前まで		散布	3 回以内 (粉剤は 1 回以 内, 水和剤は 2 回以内)	
は す い も (葉柄)	茎腐病			7 日前まで	3 回以内		3 回以内	
メキヤベツ	立枯症 (リゾクトニア菌)	500 倍	3 ℓ /m ²	は種, 仮植時 及び定植時	2 回以内	土壌灌注	3 回以内 (育苗期は 2 回 以内, 定植後 は 1 回以内)	
ブロッコリー	苗立枯病 (リゾクトニア菌)			育苗期	2 回以内	株元灌注		
豆 類 (未成熟, 但し, さやえんどう, 実えんどう, 未成熟そらまめ を除く)				21 日前まで		1 回	土壌灌注	1 回
未成熟とうもろこし	紋枯病	1500 倍	100～300 ℓ/10a	14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内	
みょうが (花穂)	白絹病	2000 倍	5 ℓ /m ²	みょうが (花 穂) の収穫 14 日 前 まで 但 し, 花穂を収 穫しない場合 にあっては開 花期終了まで		土壌灌注		
みょうが (茎葉)								
に ら				21 日前まで				株元灌注
にら (花茎)				1000 倍				

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを 含む農薬の総使用回数		
ね　　ぎ	白絹病	1000 倍	100～300 ℓ/10a	土寄せ時 但し、収穫 14日前まで	3 回以内	株元散布	3 回以内		
ふだんそう	立枯病	500 倍	3 ℓ /m ²	は種時 但し、収穫 30日前まで	1 回	土壌灌注	1 回		
未成熟そらめ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000 倍	1 ℓ /m ²	は種時			2 回以内 (は種時は 1 回以内)		
	茎腐病			前日まで	2 回以内 (は種前の土 壌混和は 1 回以内)				
み　つ　ば	立枯病	500 倍	0.5 ℓ /m ²	90 日前まで	2 回以内	株元灌注	1 回		
み　つ　ば (水耕栽培)		1000 倍	100～300 ℓ/10a	育苗期 但し、収穫 40日前まで	1 回	散布			
み　ぶ　な	立枯病 (リゾクトニア菌)		3 ℓ /m ²	は種時		土壌灌注			
み　ず　な	リゾクトニア病								
チューリップ	葉腐病	100 倍	100 ℓ/10a	植付前	5 回以内	全面散布 土壌混和	5 回以内		
		200 倍	200 ℓ/10a	植付後～ 萌芽前		全面土壌 散布			
花　き　類・ 観　葉　植　物	白絹病	500 ～ 1000 倍	3 ℓ /m ²	—		株元灌注			
	立枯病			生育期		土壌灌注			
	株腐病								
	茎腐病								
スイトビー	腰折病		100～300 ℓ/10a	発病初期		散布			
カーネーション	根腐病								
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)								
ア　ス　タ　ー	苗立枯病 (リゾクトニア菌)								
	葉腐病					株元灌注			
ハイドランジア	葉腐病	1000 倍	200～700 ℓ/10a	発芽後 (発病初期)					
樹　木　類	くもの巣病		3 ℓ /m ²			苗木兼 全面土壌散布			
	白絹病								
えぞまつ(苗木) とどまつ(苗木)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)								